

定期大会をステップに新たな前進を！

すべての組合員は傍聴に行き、大会を大成功させよう



87. 10. 9
No. 2674

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五〇六（公衆）〇四七二二二七二〇七

第12回定期大会の成功に向けて

十月十六・十七日、九十九里センターにおいて開催される動労千葉第十二回定期大会の成功をかちとろう。今大会は、分割・民営化強行後はじめての定期大会である。確信も新たにこの一年間を総括し、「四・一併制」下での闘いの方針を決定しよう。

歴史を画する大事件に 当事者として立ちあがる

われわれは、一九四九年の定員法以来ともいえる歴史を画する大事件に、当事者として立ちあがった。しかもわれわれは、この激しい歴史の転換点のなかで、唯一、起きている事態の本質を見極め、展望を見失わず真正面から労働運動の原則的立場にたつて立ちむかうことに成功したのである。他の者はどうであったか。革マル松崎のように、当局や権力にすがりついて許しを乞い、魂まで売り渡し、遂に当局や権力以上の凶暴さで労働者に襲いかかるまで至った者、また、国労中央指導部のように、激しい攻撃のうねりに翻弄され、一切の展望を失い、思うがままにもてあそばされて、ずるずると後退し、遂にその歴史的な使命を終えてしまった者など、動労千葉と全国の現場で歯を喰いしばって闘いの旗を守りとおした無名の活動家以外は全て攻撃の前のなすすべもなく屈してしまつたのである。

事業部運動で闘いを拡大

この数年間は、十万人首切り攻撃の嵐のなかで、全ての組合員が悩み、苦しみながら生活の全てを闘いにかけて日々であった。乾坤一擲二波のストライキをうちぬき、二八名の大量不当解雇や目茶苦茶な差別・選別、振り分け攻撃にも屈せず「61・11」ダイ改粉碎の順法闘争に決起し、最後の最後まで闘いの姿勢を貫いて闘いぬいた。われわれは、確かに満身創痍である。しかし、たった千名の動労千葉は、国鉄労働者も窒息させ、国鉄労働運動を圧殺しようとしたこの攻撃にかちぬいたのである。動労総連合を結成して、おし潰されるどころか逆に戦列を拡大し、不当解雇によ

る兵糧攻め攻撃に対しても事業部を発足させ、闘いを縮小するどころか、文字どおり全国にうつつで闘いを拡大した。

あらゆる困難は勝利への糧

われわれが、この間の闘いのなかでつかみとつた確信は、貴重な歴史的財産である。闘いは常に、目先の攻撃の激しさや、表層だけに目を奪われることなく攻撃の本質を見極め、歴史の大きな流れを見失うことなく、その戦略をうちたてれば必ず勝利するのである。

また、あらゆる困難は逆に新たな飛躍、より大きな事業をやりとげる力をわれわれに与えてくれる勝利への糧である。動労千葉は常にそうして前進してきたのである。

また、攻撃が激しさを増したとき、ひざを屈し闘いを裏切る者たちが、どのような恥ずべき姿で現われるのかも、われわれはつぶさに目のあたりにしてきた。

自らの未来は自らの手で拓く

今、支配者階級は、国鉄に焦点をあてて、しかけた攻撃を全社会に拡大しようとしている。われわれは、第十二回定期大会において、闘いの貴重な教訓を徹底的に総括し、血と肉として、新たな闘いに備えなければならぬ。現在の攻撃が、戦後日本資本主義が行きついた出口なき危機に原因を発生し、労働者階級と支配者階級が絶対に相入ることのない対立関係にある以上、われわれは、どんなに厳しくとも自らの未来は自らの手で切り拓く以外にない。

七五〇名の団結を守りぬいた力への自信と確信をうち固め、十二回大会をステップに、新たな前進を開始しよう。

二期阻止へ怒りの実力決起を
10.11.11 三里塚へ
集合ー旧成田運転区
10時集合
10.11.11 三里塚へ 定期大会・沖繩闘争へ